

認知症—身体障害合併症を中心に

特集にあたって

近年、認知症者の増加は社会問題化しています。厚生労働省の発表によると、認知症者の数が2025年には700万人を超えると予測され、現在の約1.5倍の数になるといわれています。これを受けて、認知症に対する取り組みも各方面で活発に展開されています。将来的には、地域で支える体制構築が求められ、地域包括ケアシステムの主要疾患になることと思われます。

このような社会情勢の中、認知症を対象とし治療を展開してきた作業療法に求められる期待は、さらに大きくなると考えられます。近年、認知症者は、中核症状やBPSDへの対応が必要とされるだけでなく、身体障害を合併するケースも多く現れ、より多角的に統合したアプローチが求められています。そこで今回「認知症—身体障害合併症を中心に」というテーマで特集を企画しました。

特集の構成は、認知症の病態から評価と対応、各種施設での作業療法の実践までがまとめられています。随所に事例も紹介され、現場での具体的支援がわかりやすく解説されています。あらためて認知症に対する知識を整理できることは言うまでもなく、本特集が現場で認知症者の対応に苦慮したときの参考になることを期待しています。

(池田吉隆)

企画担当

池田吉隆 (医療法人社団 輝生会, 作業療法士)

澤 俊二 (金城大学, 作業療法士)

竹内さをり (甲南女子大学, 作業療法士)